

美しいむらづくりを推進

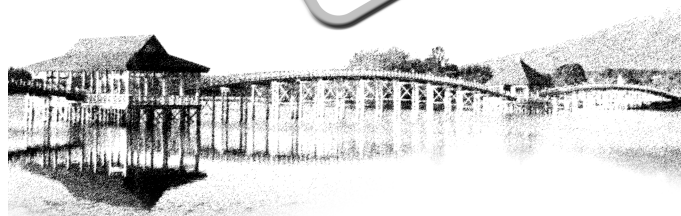
5月13日（日）、尾原常会（岡鉄美常会長37世帯）では、財団法人自治総合センターで行っている緑化推進コミュニティ助成事業を利用し、尾原地区の花壇整備を行いました。

住民は尾原文化センター前に集まり、各家庭の道路沿いに設置するプランターへペコニアを植栽しました。また、文化センターの前庭には6本のボタンザクラも植樹しました。

同地区では毎戸での美化活動により、地域活動をさらに活性化させたいという願いから今回花壇整備に取り組みました。富士見湖パークへ通じる地区のため、道路沿いに設置されたペコニアの花が、地域住民だけではなく多くの観光客の目も楽しませてくれることでしょう。



△手前にあるプランターが道路沿いに設置されます



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場企画課広報国際係までどしどしお知らせください。(☎22-2111 内線264)

人権擁護活動の功績を讃え

5月11日（金）、人権擁護委員として活躍されている菊地勝敏さん（沖）が、法務省から法務省人権擁護局長表彰を受けました。

菊地さんは平成9年6月から人権擁護委員として委嘱を受け、毎月1回役場で開設している人権・行政相談所で、町民の方々の相談相手として活躍しています。このたび10年にわたる活動が認められ表彰されました。

「わたしたちは専門家ではないので、さまざまなトラブルの相談を受け、その問題を解決するための専門家を紹介する窓口の役割をしています」と語る菊地さん。これからもうわたしたち町民の相談にのってください。



△次回の人権相談日は7月10日（火）、一人で悩まず相談を

野鳥が集まる森を作ろう

5月14（月）、津軽富士見湖畔にある「野鳥の森」に、水元中央小学校の4年生15人が、森に野鳥を増やそうと巣箱掛けをしました。

児童たちは先月、笹森松三さん（津軽富士見湖自然と野鳥を守る会会長）の指導の下、自分たちでヒバ製の巣箱を制作。野鳥が風邪をひかないようにと、巣穴の方向を考えながら巣箱を森の木々にくくり付けました。

この日初めて巣箱掛けを経験した藤田莉那ちゃんは「巣箱を掛けるとき、はしごに登ってちょっと怖かったけど、鳥が安心して巣箱に入ってくれたらいいなと思います」と笑顔で話してくれました。



△この活動のおかげで野鳥が住みやすい環境が保たれています



△メタセコイヤの成長とともに末永くお幸せに♡

メタセコイヤを記念に植樹

5月26日（土）、町主催の結婚記念植樹祭が鶴寿公園で行われました。昨年度当町では53組の夫婦が婚姻をし、そのうちの15組が参加をして、不老不死といわれるメタセコイヤの木を夫婦で仲良く植樹しました。

代表の謝辞を述べた澁谷和臣さん、寿々代さん夫妻は「ほかの町ではやっていない素敵なイベントだと思いました。植えた木が育つのが楽しみです」と嬉しそうに感想を話してくれました。

植樹後には参加者全員で記念撮影をし、中野町長から難を転ずるといわれるナンテンの木とヒバの表札がプレゼントされました。

ホタルの生態について学習

5月31日（木）、鶴田小学校（尾崎美津郎校長）の3、4年生とホタルを呼び戻す会（池田勇作会長）が、丹頂鶴自然公園内の小川に約300匹のホタルの幼虫を放流しました。

同会の放流は今年で4回目となりますが、子どもたちと一緒に放流するのは今回が初めて。子どもたちは「ちゃんと育ててね」などと思い思いに声を掛けながら、尾崎校長が育てたゲンジボタルとヘイケボタルの幼虫を餌になるカワニナ（巻貝）と一緒に小川へ放流しました。

6月末には成虫になったホタルが夜空を舞う姿が公園内で見られるそうです。



△ホタルが飛び交う姿を見るには午後8時ごろがベストタイム